



ライフ・ステージエコー2018 ～新たなフラメンコ音楽の世界へ～

1月13日（土）、さかきテクノセンターでライフ・ステージエコー 2018 が開催されました。
今回の出演者は、情熱と切なさ、優雅さとパッションを兼ね備えた独自のスタイルを追求している、フラメンコギター、ヴァイオリン、パーカッションのユニット「soluz（ソルス）」でした。「フラメンコ音楽」に馴染みのない方にも気軽に楽しい演奏会となりました。

内 容 ： 2～4 P ふるさと探訪PART100 5～7 P 行事から、500字リレートーク 他
8 P お知らせ

4月からの講座参加者募集

坂城町公民館文化講座

平成 30 年度文化講座の受講生を募集します。複数の講座の受講もできます。初心者を対象としていますので、ぜひお申し込みください。

俳句	短歌	茶道(表千家)	茶道(裏千家)	木彫	書道	コーラス	陶芸	古文書	絵画	盆栽	写真(新たに開講予定)
----	----	---------	---------	----	----	------	----	-----	----	----	-------------

申込期間 4月2日（月）午後1時30分から16日（月）3,000円（1講座）

受講料 ただし、教材等は実費負担。

開講式 4月17日（火）午後7時
文化センター1階大会議室
※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。

※申し込みは、坂城町公民館事務局（文化センター内）まで、受講料を添えてお申し込みください。

※講座の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。

電 話 82-2069

現代詩を楽しむ会

今のあなたの心情を形式に縛られない現代詩で表現してみませんか。共に学びましょう！

興味のある方は下記のとおり行いますので、ご参加ください。

日 時 4月17日（火）午後5時から

場 所 坂城町文化センター クラブ室1

呼び掛け人 柳澤 澄さん（上平）

リトミック教室

音楽(リズム)を用いて人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる講座です。楽しい講座です。保護者と子どもで参加してください。

申込開始期 日 4月9日（月）から開始
5月9日～2月27日
毎週水曜日（年間40回）
午前10時～11時30分

会場 文化センター
指導者 中沢敏江さん
対象 1歳半～3歳児とその保護者

受講料 8,000円
定 員 20組

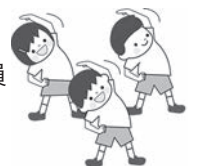


キッズスポーツ教室

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。

申込開始期 日 4月9日（月）から開始
5月9日～3月6日
毎週水曜日（年間30回）
午後4時30分～5時30分

会場 文化センター体育館
指導者 長野体育指導センター指導員
対象 3～5歳児
受講料 15,000円
定 員 30名



生活改善で葬儀、婚儀をする場合の案内状に同封する通知文は文化センターにあります。ご利用ください。

葬儀・・・香典1,000円、法事3,000円

香典返しは半返し以内で。花輪は辞退しましょう。近親者はこの限りではありません。

婚儀・・・祝儀(会費)3,000円

引き出物、記念品を出さない。近親者はこの限りではありません。

説 かい 開 ぜ 館 歌

春の陽がそそぐ山肌
に、木々の芽吹き、の気配
を感じる頃となりました。
この時期、新聞紙上を
にぎわす山野草がありま
す。セツブンソウです。
日本原産の多年草で、環
境省・長野県ともに「絶
滅危惧Ⅱ類」に指定して
います。
関東以西地域に分布
し、石灰岩地帯を好み、
落葉樹林内の斜面などに
まとまって自生します。
草丈は十センチ前後、そ
の先端に白色の可憐な花
を一個付けます。花の径
は約二センチメートル。
白色の花びらに見えるの
は五枚の萼片です。花び
らもあるのですが、退化
して、五個の黄色い蜜線
になっています。
節分の頃に咲くこのこ
とで名付けられたよう
ですが、千曲市戸倉のキ
ティーパークと倉科の自
生地では、例年三月中旬
頃が見ごろとなります。
二つの自生地は、北限と
も言われています。そし



て千曲市は、「指定文化財
（天然記念物）」に指定し、
「戸倉セツブンソウを育て
る会」・「倉科の自然を守
る会」の方々により保護
活動を継続的に行ってい
ます。
坂城町は千曲市の隣、
自生地があってもおかし
くないと思うのですが、
坂城町誌上巻（自然編・
民俗編）には、セツブン
ソウの記載はありません。
真冬に芽を出し、葉を
開いて、雪解けを待つて
開花し、四月には茎葉が
枯れて秋まで休眠に入
ります。三月下旬の今、ま
だ貴重な春の花が観られ
る頃です。
本年度の坂城町公民館
の各種事業展開にあたり
まして、分館役員さん
をはじめ多くのみなさん
のご協力をいただきました。
改めて深く感謝申し
上げます。次年度も工夫
を凝らし、町民の皆さん
の学ぶ場づくりや地域の
絆を深めるための事業を
展開してまいります。

特集 ふるさと探訪 PART 100

村上地区を通った中世の道(その2)

今回のふるさと探訪は、前号から掲載している中世の街道の研究を長年続けている浅野井坦さんの寄稿です。

○網掛の道すじ(1)

古屋敷の地は千曲川の自然堤防の上に、西側の寺沢川からの押出しが乗っており、周辺の地よりやや小高くなっている。ここには度重なる水害などから館の痕跡は残されていないが、わずかに東の旧河床を堀に転用したと思われる池の跡が残っている。また、昔は矢竹が生えていたと伝わる。

道は県道の西側を一〇〇mほど北へ行き、西へ曲がって用水の「久(九)膳待井」に出る。ここから西へ一五〇mほどの間が、宿駅のあった場所、「宿」である。ここは地元では「シヨク」と発音する。そしてシヨクの家とか、シヨク通り、シヨク村とよんできた。宿をシヨクとよぶ例は他地域にもあり、上山田新山の見性寺前の道付近も宿と記してシヨクと呼んでいる。

道をしばらく進むと左に「天王社」がある。現在近隣の家が講中となっているが、近世は村持であって、



天王社 (再建)

代参人が愛知県津島神社へ行っていたことが、関所手形などからわかる。昔の人は崇りを非常に恐れていたもので、宿がなくなっても祀られていたお宮をつぶさず、丁重に守ったのである。「天王社」は昔、用水ばたにあつたと伝わる。このことから「久(九)膳待井」とは「宮前待井」の用字だったと思われる。

宿というところ、道の西側に家が立ち並ぶ近世の宿場を思い浮かべる人が多い。しかし中世のそれは、それほど簡単なもので、左側にバラックのような家がわずかに

あるばかりで、道の右には千曲川の分流など流れこんでいたと思われる。明治期の地籍図を見ても、右側は一面水色に塗られていて、湿地であつたことがわかる。ここが舟着場と呼ばれる場所である。

昭和四〇年代の終わり頃、東京大学の石井進先生が小家へ立寄られたとき、宿を案内した。先生は天王社



西から見た宿、右の道は横町へ



民家の裏が「網掛舟着場」

実行委員会で企画・運営する 泉文化祭

泉文化祭実行委員 本間 努

坂城町公民館(本館)より、泉文化祭の活動状況について、原稿の依頼がありましたので、少しお話しします。

平成二十九年は、十一月十一日から二日間、第十回泉文化祭を開催しました。

歴史を紐解きますと、第一回は、区の役員さん(三橋和雄さん達)が、新興区の泉区として、何か特徴が欲しいとの思いから、泉区文化祭を始めました。しかし次の年は、中止になってしまいました。その次の年、せっかく始めたのだから続けていこうと、実行委員会形式で行うことになったと聞いております。現在は、

継続している実行委員に、その年の区の公民館役員さんが加わり、実行委員会を組織しています。

文化祭の内容ですが、毎年なにかしら、工夫し執り行っています。昨年は、展示物を自分達で作ろうというところで、本館から講師を紹介してもらい、【弦で籠を編もう】を実施しました。同じ弦で【クリスマスリースを作ろう】と、【苔玉作りの作品と合わせ、写真・絵・手芸などの展示をしました。また、【異食文化体験】として、区内在住のタイ、フィリピンの方々の料理試食、

二日目の芸能コーナーでは、金井在住の白川義雄さんによる、スライドドラマが大好評でした。白川さんには、二年連続でのお願いでした。昨年は、太平洋戦争中の、上



500字リレートーク

「鉄の展示館」

河内 一平

刀鍛冶になるため坂城町にきて18年になります。宮入師の元で5年の修業を終えた後も、居心地の良いこの町にお世話になっていきます。

皆さんもご存知の通り坂城町には「鉄の展示館」があります。坂城町は鉄に関する製造業に携わっており、日本刀に興味をお持ちの方が多く、同じ鉄である日本刀に興味が持てないのか。一方で「日本刀はよくわからない」と感じておられる方も多いようです。

日本刀は一部の識者の趣味という色合いが強く、実際に入りづらい世界でしたが、「鉄の展示館」では我々刀鍛冶も協力させていただき、初心者の方にもわかりやすい解説やイベントを数多く開催しています。最近では若い方や、女性にも多く参加していただいております。



第47回 元旦マラソン大会

毎年恒例の元旦マラソン大会が行われました。新年早々好天に恵まれ、昨年より多い468名が参加しました。入賞された方々を紹介し

ます。

敬称略

◎6km一般男子

一位 眞田 稜生(上田市)
二位 田中 圭(長野市)
三位 櫻井 心路(松本市)

◎6km一般女子

一位 宮澤花奈実(松本市)
二位 鈴木 菜生(上田市)
三位 濱 彩音(上田市)

◎6km小学生男子

一位 丸山 直生
(山形村5年)

◎6km小学生女子

一位 田畑 香奈

二位 田中 朱音

三位 大場 心愛
(村上小5年)

◎3km一般の部

一位 西澤 賢信(長野市)
二位 近藤 寛康(長野市)
三位 岡松 希星(上平)

◎3km小学生の部

一位 笠嶋 佑樹
(長野市4年)

二位 宮崎 快斗
(村上小4年)

三位 平林 篤
(村上小4年)

◎15km小学生の部

一位 飯島千太郎
(長野市6年)

二位 春日信太郎
(坂城小6年)

三位 内山 晴貴
(南条小6年)

※ペアにつきましては、順位がありません。



第51回 坂城町席書大会・書初展

第51回席書大会・書初展を、1月4日・5日・6日に開催しました。

席書大会では、約100人が参加し、書初めをしました。

書初展には、114作品が出品され、多くの皆さんに観覧していただきました。入賞された方々を紹介し

ます。

敬称略

坂城町長賞

坂城小 6年 坂口 琴美

町教育長賞

南条小 4年 宮下 莉子

町書道協会長賞

村上小 5年 塚田駿之介

金賞

南条保育園 重倉 凛
南条保育園 鈴木 悠友

銅賞

坂城小3年

玉井 里奈

銀賞

坂城小1年

栗原 夢来

坂城小4年

西澤 早絵

坂城小5年

山岸 拓武

坂城小6年

山岸 奏子

坂城小6年

山岸 結彩

坂城小1年

山岸 奏子

坂城小2年

池田 早良

坂城小2年

池田 武洋

坂城小4年

片山 夏美

坂城小5年

三井 恒輝

坂城小6年

三井 飛裕人

坂城小6年

山崎 悠靖

坂城小2年

山城 笑菜

坂城小5年

齋藤 彩

坂城中3年

三井 莉央

坂城中3年

宮本 羽ノ夏

上田高校

小出 紗那

一般

池田 智子

一般

片岡 佐和子

坂城小3年

小出 久遠

坂城小4年

本藤 真宏

坂城小4年

宮沢 華奈

坂城小5年

水出 聖

坂城小6年

玉井 遥斗

坂城小6年

柳澤 光樹

坂城小6年

佐久間 優佳

坂城小1年

尾基 結菜

坂城小2年

小宮 瑛太

坂城小2年

中島 侑海

坂城小3年

樋口 桃花

坂城小4年

田中 鈴莉

坂城小5年

高野 小晴

坂城小6年

山岸 柚菜

坂城小6年

米田 愛祈

坂城小6年

辻出 小遥

坂城小6年

樋口 広晟

坂城中2年

栗原 夏来

坂城中3年

小西 沙幸

坂城中3年

小出 真生

坂城中3年

鈴木 悠里

屋代高校

柳澤 郁子

一般

松澤 公夫

は水鎮めの他に、市神として祀ることが多いと教えてくれた。宿の両側の家は戦国時代以降、ここへ移ってきたとの伝承がある。宿が廃止された後、荒れ果て、舟着場もなくなったと思われる。

道の西端は寺の跡地で、明治初年、産物会所に転用されたことから会所とも呼ばれたが、昭和前期には神楽もここで舞われた。寺は戦国時代の天正年間に改宗の上創められたようだが、たぶんそれ以前から密教系の堂などがあつたと思われる。地域には昔、「寺で首を斬られた者がいたそうだ」という伝承を語ってくれた人もい

る。すると中世の初め頃、ここは宿であり、舟着場でもあり、市も開かれ、時には刑場にもなった場所だったと考えられる。

は水鎮めの他に、市神として祀ることが多いと教えてくれた。宿の両側の家は戦国時代以降、ここへ移ってきたとの伝承がある。宿が廃止された後、荒れ果て、舟着場もなくなったと思われる。

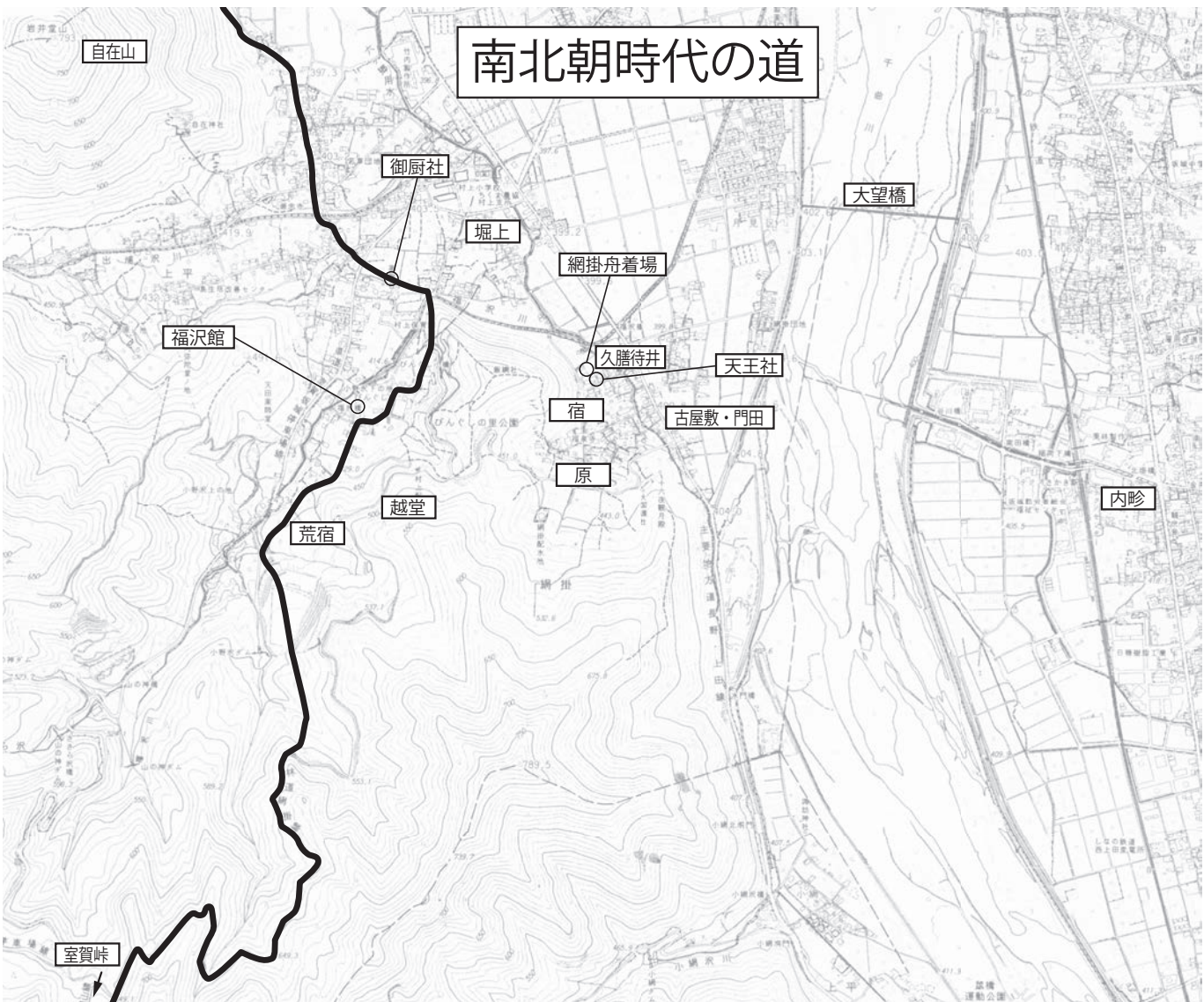


みくりやしの御厨社

寺跡から福泉寺大門など南へ行く道もあり、周辺を横町と呼んでいる。これは「大手道」つまり、館道に對し、越堂に短絡する横道ができ、やがて住居が連なることによって、横町と転訛したのかもしれない。越堂からの道が東へ進むこと、宿が東西に連なることなどからも、「古やしき」の存在が重要視されてくる。

道は山際から「堀上」に進み、左折して上平の御厨社の裏へ続く。堀上の中ほ

南北朝時代の道



どに寺替の地と墓地がある。これは越堂にあった実成坊が移ってきた地とされる。このことは、越堂にあった道が、使われなくなったことを示しているとみてよい。

○坂城の地頭

坂城の地頭は鎌倉時代の途中から薩摩祐長であった。その没後、子の薩摩祐氏が坂木（城）北条を、同じく薩摩祐広が坂木（城）南条を分割相続したのである。薩摩氏とは耳なれない姓であるが、曾我五郎・十郎の兄弟が富士の裾野で御家人の工藤祐経に仇討をする有名な話があり、祐経の六番めの子が薩摩氏を名乗った。

南条の領主の祐広は南条一郎とも称したが、南条の他に小県郡浦野の西馬越郷内半分も自分の領地だった。青木村国宝三重塔のある大法寺近辺の地である。薩摩氏は信濃守護北条氏のお気に入り、祐広の領し

た残りの半分も同族の領地であり、さらに一族は現在の佐久平駅周辺も領地としていた。

祐広らの関係者は同じ領地の西馬越郷への往復には、今のように千曲川沿いの小網や半過など急崖の下は通れなかったため、網掛へ渡り、越堂や室賀峠を経て行ったと思われる。塩田や長野の後庁へ行くのにも当然利用されたであろう。舟着場は重要拠点なので、そこを守るため川の兩岸に館を設けることは、各地で行われている。古やしきにあった館は、そのためのものだったと考えられる。

右岸の舟着場は、たぶん谷川が千曲に流れ込むあたりで、それを守る館は現在のさかきテクノセンター南側にある「内畛」と思われるが、詳しいことは不明である。力のあった薩摩氏のことだから、幹線道路をこのように曲げて、網掛を通る政治路線にしたのだと考



うちうね 内畛・土塁の上の老樹

の許に隠れていたが、北条氏再興を企んで兵をあげた。同年九月、坂木（城）の地頭だった薩摩刑部左衛門入道と五郎佐衛門尉親宗父子等は、坂木（城）北条に城を構えて籠城した。しかし後醍醐天皇から信州惣大將軍に任じられ、都から下向した村上信貞により敗れた。

もともとこの地は村上氏の名字由来の地であった。しかし承久の乱以降は、北条氏のものになっていったようである。信貞は源藏人であるので、朝廷に勤めていたのである。薩摩氏を滅ぼしたことにより、信貞は祖先の地を回復することになった。なお、「村上」とは国郡制を定めたとき、郡で川の上流部を示したよう

で、各地にその例がある。県内では安曇にその名が見られる。薩摩氏が姿を消したため、網掛を通る道は廃され、まっすぐ北の方へ進む道となり、館や宿、船着場もなくなったと思われる。途中の福沢には新しく宿が設けられ、「荒宿」の地名が残っている。ここでは「あらじゆく」と呼ばれている。だが明治期の地籍図をみても地割の跡を伺うことはできない。埋もれた地名も、以上のようにみていくと、いろいろなことが考えられてくる。

網掛 浅野井 坦

訂正とお詫び

公民館報第384号掲載のふるさと探訪PART99に誤りがありました。筆者及び読者にお詫びするとともに、次のとおり訂正いたします。

4ページ中下から2段5行目 「上平島間」↓「上平島館」

第二十二回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

更埴公民館運営協議会（坂城町と千曲市で構成）主催の文学祭表彰式が、去る11月18日（土）に千曲市八幡公民館で開催されました。坂城町の入賞作品を紹介します。敬称は略させていただきます。

一般の部

【短歌の部】

◆佳作

作 ことは所作まるで亡母だと言う夫のごつつい顔が少し嬉しそ

中島 照代（中之条）

コトコトと豆のリズムは母の詩うま味出るまでゆったり揺れて

小宮山洋子（中之条）

赤・白・黄ゆったり泳ぐ濠の鯉松本城のいらかの上を

滝沢さち子（入横尾）

「おはよう」と登校班の声がする「朝餉に帰ろ」私の時計

千野 敏子（刈屋原）

【俳句の部】

◆入選

くぐり戸を少し斜めに薄衣

竹内 文（月 見）

花木槿葉巻の如く零れけり

滝沢ふじ枝（中之条）

【川柳の部】

◆佳作

孫の成長生き甲斐として歛ふるう

西澤ひろ子（北日名）

◆入選

夕焼けへ昭和史の負を語り継ぐ

小宮山洋子（中之条）

老骨に鞭打つ夫の汗しとど

小川 碧（中之条）

旅気分非日常に酔いしれる

風雲児

【現代詩の部】

◆更埴公民館運営協議会長賞

屋下がりの駅

石関みち子（込 山）

眼の前に白い大きな立看板が四枚以前は温泉などの広告で賑やかだったがいまは白いペンキがベタに塗られている

千曲川に沿って河東線と呼ばれて走っていた電車がなくなってもう何年か線路もはずされ風景はどう変わったのか

ここ出發駅の渡り通路はそのまま立入禁止とされ さながら敗残兵の如し待合室も取りこわされ夏草の茂るまに

小中高生の部

【短歌の部】

◆入選

たのしみは雪が積もった初めの日一番最初に足つける時

村上小学校六年 伊東 瑠香

【俳句の部】

◆奨励賞

川の岸ホテルが光り川光り

南条小学校六年 山崎 颯太

◆佳作

ひまわりのてんぼう台にあり一ひき

村上小学校三年 松林樹里亜

◆入選

夏の空星の数だけながいごと

村上小学校六年 鴛澤 樹里